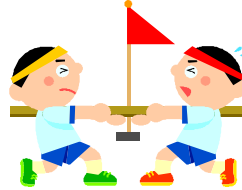
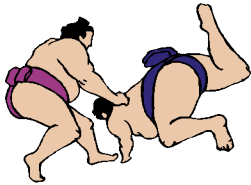


ちかくのちかこ



ホームページ <http://ohnochikako.com>
メール info@ohnochikako.com
連絡先 茨木市庄2-25-23
TEL 072-622-8615 FAX 072-625-0934



みなさん。こんにちは。大野ちかこです。元気でお過ごしでしょうか。残暑がえらい長引いてるなあと思っていたら早いものでもう「立冬」ですね。冬が来たという実感はまだ湧きませんがこれから徐々に冷え込んでくるのではと思います。体調管理を万全に忙しい年末年始を乗り越えていきましょう!!!



9月の主な活動

- 1(土)夢を叶える学校お話し会
- 4(火)茨木JC理事会
- 7(金)本会議
- 9(日)ソフトバレーボール大会
- 10(月)本会議
- 11(火)民生常任委員会
- 14(金)JICA見学
- 16(日)畑稲刈り
- 17(祝)庄栄校区敬老会
- 18~21決算特別委員会
- 24(祝)住み続けたいまち茨木・市民フォーラム
- 27(木)インターン生と市内施設見学
- 28(金)本会議閉会
- 29(土)庄栄小運動会



10月の主な活動

- 2(火)茨木JC理事会
- 4(木)三島中運動会
- 7(日)庄栄地区運動会
- 10(水)広報委員会
- 11(木)住みよいまちづくり協議会
- 21(日)東邦幼稚園運動会
- 26(金)石田英司トーク&ライブショー
- 28(日)三島中ふれあいフェスタ
茨木市わんぱく相撲秋場所
- 30(火)畑畝作り
- 31(水)福祉作業所スタッフお別れ会



6月議会の一般質問(おおまかな内容)

1. 母子保健におけるたばこ対策について

5月31日は世界禁煙デー。喫煙はガンや脳卒中、心筋梗塞だけでなく慢性気管支炎や肺気腫などのさまざまな病気の危険因子である。それに加え、今年4月、ADHD(注意欠陥・他動性障害)の子どもの場合、母親の喫煙率が同世代の女性の2倍高いことが大阪府の小児科医の調査でわかった。

ちかこQ 喫煙による母胎や胎児、乳児への影響に対する市の認識は？
お子さんや保護者に対する取り組みはどのようになっているのか？

健康福祉部長A 妊娠中の女性の喫煙が流産や死産、未熟児の出産の原因になると言われている。市では、パパ&ママクラスにおいて喫煙や受動喫煙の害について周知。妊娠中だけでなく乳幼児を抱える保護者の方に対してもたばこの

害について周知・啓発している。将来親になる小・中学生に対しても出前講座を実施し早期の防煙教育に努めている。

Q 出産後母親がタバコを吸うと、母乳中のニコチンは母親の血液中の濃度に比べ3倍であると言われる。家族や周囲のタバコの煙を吸い込むことで子どもが、喘息気管支炎、中耳炎などになりやすく乳幼児突然死症候群(SIDS)の危険性が高まると言われている。今後の取り組みは？



A. 今年度「健康いばらき21」の中間評価及び計画見直しを実施する中で小・中・高・大学生や乳幼児健康診査を受診する保護者にアンケートを実施し市の現状を把握するとともに問題点を明確にしより一層防煙対策を進めていく。



ちかこの要望...愛知県豊橋市では禁煙を指導する医療機関、薬局の紹介のチラシを作成。また、禁煙・分煙の環境が整っている施設を認定し認定証を交付されている。そのほかには総合福祉センターの中の子どもの遊び場に喫煙防止の啓発ポスターが貼ってあった。こういうポスターを保健医療センターに貼るのはごく当たり前の発想だと思うが、いろんな年齢層、環境の方に見ていただくことのできるやり方のひとつだと感じた。市民のみなさんに健やかに毎日を過ごしていただけるよう行政の親切さ、工夫が表れる対応を。

2. 中途失聴者への取り組みについて

平成18(2006)年12月の国連総会において、障害者の権利条約が採択された。

ちかこQ. 市内の聴覚障害者のうち、中途失聴者の数、その方々のコミュニケーションを図る手段の内訳、手話通訳者、要約筆記者の過去3年間の派遣件数は？

谷口健康福祉部長A. **中途失聴者の人数については把握が困難。**

聴覚障害の身体障害者手帳保持者数...

1級83人、2級259人、3級97人、4級145人、5級2人、6級191人 合計777人



Q. 日本の聴覚障害者数は35万前後(障害者手帳保持の方)と言われている。

軽度の方や老年性難聴者を含めると66万人もいると言われる。

手話を言語とする聴覚障害者は約3万人から4万人で、一般的に聴覚障害者は手話で会話できると思われがちだが実際には多くはない。逆に手話を習得しなくても日本語を文字として理解することは可能な人が多いため情報保障手段として要約筆記を用いるケースが増えてきている。

茨木市の手話通訳、要約筆記者の養成の取り組みはどのようになっているのか？

A. **手話通訳入門講座20回、基礎講座23回、養成講座28回**



要約筆記の講座年間20回開催、修了者を対象に登録要約筆記者選考試験を実施。

選考試験合格者はそれぞれ年9回の研修会を開催し、さらなる技術の向上を図り、コミュニケーションの確保に努めている。

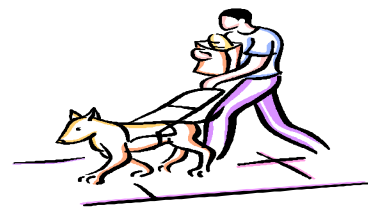


ちかこ...聴覚障害者に対する情報保障の基本は「聞こえる人と同時に、同じ内容のことをあらゆる方法で伝えること」

ひとつの情報を得るにも健常者の方とスタートラインが違うとおっしゃった聴覚障害者の方の言葉にもあるように、日頃から感じておられるストレスや疎外感は計り知れないものがあると考え。

今後、災害時の要援護者確認名簿登録者数の増加に向けてのPRも引き続きお願いし障害福祉課、総合防災課で連携し合い情報保障の取り組みを要望する。





9月議会 民生常任委員会質問（おおまかな内容） 障害者施策について

Q. 茨木市の障害者の相談事業の形態は？

A. 地域生活支援事業のうち障害者相談支援事業を進めている。（身体、知的、精神に対応）

Q. 障害者に対する虐待の状況は？

A. 今のところ障害者を特定とした虐待の情報は聞いていない。

Q. セーフティネットの立ち上げ状況は？いつまでに全小学校に立ち上がるのか？

A. 現在市内32小学校区中14校区で構築。まもなく3校区で立ち上げ。他4校区で調整中。それぞれ地域の状況もあり、全校区立ち上がる時期については未定。

Q. 千葉県では今年日本で初めての障害者差別禁止条例が施行された。茨木市の考え方は？

A. 全ての差別問題に対応すべく施策を展開している。個別の差別禁止条例等の設置は考えていない。

ちかこ・・・セーフティネットの立ち上げは行政だけでなく地域のみなさんのご協力なしでは成り立たないものだど重々認識しているが、その地域の方のヤル気、民生委員さんのヤル気、行政の段取りの良し悪しで住民への対応やサービスが遅れてはいけなと考える。早急に各地域で立ち上げられるよう取り組んでいただきたい。

障害者に関する第3次長期計画では障害者の介助をされる38%が配偶者、約21%が子どもに依存。身体障害者においては49%、知的障害者においては78%が親による介助であることがわかっている。この数字の高さが虐待に繋がる大きな原因のひとつだと考える。

母親が知的障害の息子に食事を与えず死なせる、祖母が知的障害のある孫の将来を懸念し殺害。。。こういった事件は障害者にとって住みづらい世の中というものを露呈しているのではないかと。

障害がある人がこんなことに困っている、こういうことが必要だと言いやすくなるように、また障害がない人もそれを聞いて協力すべきところには力を注いでいく、そういう世の中になるよう施策の向上を要望する。



健康福祉部による防災の取り組みについて

Q. 東京都では妊産婦にアンケートをとり災害時のマニュアルを作成。愛知県豊橋市では子育て情報誌の中で「親子の防災・減災」の特集を組んでおられた。茨木市で要援護者支援名簿の対象者に妊産婦を加える予定は？



A. 今後、どのような対応が必要かマニュアル化する必要があると考える。親子向け等も含めて検討してみたい。



Q. 保育所の防災訓練はどのように行われているのか？

A. 年間スケジュールの中で地震、火災、不審者進入対策等を月1回実施。暴風雨時の登所等についてはマニュアルを作り保護者へ配布。

Q. 視覚・聴覚障害者の方が災害時コミュニケーションがとれないから炊き出しを遠慮するケースがあるがそういう場合の対応は？

A. 身体障害者福祉協会の中の聴言部や障害福祉課職員、その他通訳に関わっておられる方で自主的に災害時に備えた組織をつくっている。

Q. 健康福祉部所管の各課の防災マニュアルはあるのか？



A. 障害福祉課...今時点では総合防災課の一定のマニュアルに沿ってやっていくということで独自には作っていない。洪水注意報や警報が出た場合、障害者施設に緊急連絡をとる為の連絡網は作成。

児童福祉課...課全体としては市が策定したマニュアルに従うが保育所に関しては災害時で警報が発表された場合の連絡網の整備(平日と休日等に分かれる)、それに基づく所長等の動きを明記、子どもの退所、保護者への連絡等の活用をしている。

高齢福祉課...老人福祉センター等へ指示するための防災マニュアルは作成。

子育て支援課...台風時の対応についてマニュアルを作成。つどいの広場に來られた市民の方も一緒に避難訓練を実施している。

保険医療課...応急救護所を11ヵ所設け、災害による多数の負傷者が発生したとき、またその恐れのある時は医師会を始め三師会の先生方に対応していただけるよう現在、体制を整えているところ。

ちかこ...

・妊産婦へのアンケートは市民に対してだと費用と時間がかかりかかると思うので職員(妊産婦や小さい子どもがおられるところ)を対象に取り組んでみてはどうか。しっかりしたマニュアルを一度作っておけば今後いろんな場面活用できると考える。

・マタニティマークの配布、また要援護者とスグわかるバッジなどの作成、配布を要望する。

・茨木市内0歳から4歳児は約13,000人。

総合防災課で備蓄している粉ミルク(350g)40缶、哺乳瓶40本
おむつ高齢者用280枚、子ども用2,900枚毛布1万枚である
ということをしっかり市民に周知し、最低3日分は各自で用意されるよう徹底すべき。

・茨木市民27万の命と財産を守っていかうと思ったら、総合防災課だけの取り組みではとても追いつかない。各部署、各課横のつながりをもっといただくよう切に願う。
私自身も気付いたことはお伝えしていくので、行政側も想像力をふくらませて施策の充実に取り組んでいただきたい。

